

保険・年金 フォーカス

NAIC(米国)やACPR(フランス)が 2024年の監督・規制上の 優先事項を公表

保険研究部 研究理事 中村 亮一
TEL: (03)3512-1777 E-mail: nryoichi@nli-research.co.jp

1—はじめに

米国のNAIC(全米保険監督官協会)は、2024年2月13日に、2024年の規制上の優先事項を公表している¹。また、フランスのACPR(健全性監督破綻処理機構)も2024年1月15日に監督上の優先事項を公表²している。

今回のレポートは、これらのNAICやACPRの2024年における監督・規制上の優先事項について、報告する。

2—NAICの2024年の規制上の優先事項

NAICは、2024年2月13日に、2024年の戦略的優先事項を発表した。

NAIC会長兼コネチカット州保険局長のAndrew N. Mais氏は、以下のように述べている。

「調整、協力、コラボレーションの基盤に構築された州ベースの保険規制システムは、これまで以上に相互接続された世界の共通の課題と責任を引き受け続けるための十分な仕組みを備えている。NAICの2024年の規制上の優先事項は、消費者、保険業界、市場に影響を与える最も差し迫った問題に対する革新的かつ効果的な解決策を追求するというNAICの取り組みを反映している。」

NAICの2024年の規制上の優先事項は、アルファベット順で、以下の通りとなっている。

気候リスク/自然災害とレジリエンス

気候リスクの増大によってもたらされる脅威に取り組むには、緩和、消費者教育、緊密な連携が引き続き中心となる。NAICが提案する保険のための国家気候レジリエンス戦略は、プロテクションギャップを測定及び評価するための包括的なNAIC気候リスクダッシュボードの立ち上げを含む、統

¹ <https://content.naic.org/article/naic-announces-2024-strategic-priorities>

² <https://acpr.banque-france.fr/communiqué-de-presse/lautorite-de-contrôle-prudentiel-et-de-résolution-devoile-son-programme-de-travail-pour-lannée-2024>

合されたアプローチ、データ収集と利用、及びレジリエンス活動を規定している。NAIC はその活動の中で、新たなレジリエンスツールの作成、災害前軽減資金の提唱、州規制当局向けのシナリオ分析リソースの開発も目指す。

保険会社の財務監視と透明性

監視を強化し、進化する投資戦略に適応することを目的とした NAIC の「保険会社投資規制の枠組み」は、信用格付けプロバイダーへの盲目的な依存を減らし、NAIC の証券評価局の役割を近代化する。その他の戦略項目には、最新の経済シナリオジェネレーターの開発や、保険会社の仕組証券保有のキャッシュフロー評価の透明性と正確性を高めるための資産十分性テストフレームワーク（AG 53）の継続導入が含まれる。

保険商品のマーケティング

州の保険規制当局は、欺瞞的で誤解を招く保険マーケティングから消費者を守るために、多角的なアプローチを再び講じることになる。州保険規制当局は議会や連邦政府機関との連携に加え、各部門間の情報共有を強化し、消費者が保険会社のライセンスを確認できる NAIC.org でホストされるツールを開発する予定で、追加情報は州保険セクターのウェブサイトで入手できる。他のステップには、健康保険のリードジェネレーター（見込み顧客開拓活動者）に対する規制権限を付与するための NAIC モデル法の修正が含まれる。消費者をさらに支援し、高齢者のプロテクションギャップを埋めるために、NAIC は議会に対し、メディケア・アドバンテージ市場に対する州の規制権限を回復するよう引き続き求めている。

人種と保険、金融包摂、プロテクションギャップ

これらの相互に関連する多面的な問題は、消費者、保険規制、業界に影響を与えるため、個人、政治、公共政策の領域に及ぶ。これらの重要な分野のそれぞれを主導することに専念する NAIC は、2024 年も引き続き関連問題を特定し、プロテクションギャップの解消と金融包摂の拡大に焦点を当て、最新情報を入手し、法的又は規制の変更を推奨する予定である。

保険会社による AI の使用とサイバーリスク

人工知能やその他のテクノロジーの急速な開発と使用は機会を生み出すが、消費者のプライバシー、サイバーリスク、キャリア（保険会社・グループ等）のニーズと能力、規制環境の複雑さに関する重要な疑問も生じる。NAIC のイノベーション・サイバーセキュリティ・テクノロジー（H）委員会は、NAIC をこの分野の最前線に位置付けている。2024 年の NAIC の議題には、教育と関与の機会の促進、保険会社による人工知能システムの使用に関するモデル速報の採用を監視及び支援する主要プロジェクトと取組みの主導、傾向の調査と監視、規制枠組みの提案などが含まれる。サードパーティのデータと予測モデルを監督し、サイバーセキュリティイベント対応計画の開発を完了する。プライバシー保護（H）ワーキンググループを通じて、州の保険規制当局は、最新化及び強化されたプライバシー保護を通じて消費者の機密情報を保護する将来に焦点を当てている。

なお、NAIC メンバーは、戦略的な規制上の優先事項に加えて、引き続き重要なモデル法とモデル

公報の採用を実施及び実行し、AM（集計法）の国際的な同等性を目指して取り組み、州連携戦略計画を通じて強化されたメンバー サービスと接続性に注力していく。

なお、2023年の規制上の優先事項としては、以下の項目が挙げられていた。

- ・気候リスク／自然災害とレジリエンス
- ・データ／人工知能、サイバーセキュリティ、及びイノベーション
- ・保険会社の財務監視と透明性
- ・長期介護保険（LTCI）
- ・保険商品のマーケティング
- ・人種と保険、金融包摂、プロテクションギャップ

また、2022年の規制上の優先事項としては、以下の項目が挙げられていた。

- ・「H」委員会によるサイバーセキュリティ、消費者データ／AI、イノベーション
- ・介護保険
- ・人種&保険
- ・気候リスク／自然災害とレジリエンス

従って、2024年は、基本的には2023年の項目を継続しているが、一方で過去2年間において掲げられていた「長期介護保険（LTCI）」の項目が無くなっている。

3—ACPRの2024年の監督上の優先事項

フランスのACPR（健全性監督破綻処理機構）は、2024年1月15日に、2024年の作業計画を公表した。2024年の作業計画は、ACPRとフランス銀行（Banque de France）が作成したフランス金融システムのリスクマッピングに基づいており、単一監督メカニズム（SSM）、単一破綻処理委員会（Conseil de résolution unique（CRU）³、欧州銀行監督局（EBA）及び欧州保険年金局（EIOPA）の管理の優先順位を統合したものである。

ACPR事務局長のNathalie Aufauvre氏によれば、ACPRのロードマップの優先事項の中には、より循環的な要素に加えて、サイバーや気候リスク管理など、金融セクターが経験している構造的な変化に関連する要素が含まれている。また、「ACPRの保険気候ストレステストの結果が今年公表されれば、気候変動リスクが保険会社の対応能力に与える影響について新たな尺度が提供され、リスクの保険性や再保険に関する疑問が提起されることになる」と述べている。

具体的な項目としては、**監督カレッジ**と**破綻処理カレッジ**について、それぞれ以下の項目が挙げられている。各項目のうち、主として保険に関係する項目について、抜粋して報告する。

監督カレッジは、以下の4つの主要業務を定めて、採択している。

³ 英語で「Single Resolution Board（SRB）」と呼ばれる。破綻銀行の秩序だった破綻処理を確保し、参加するEU諸国及びその他の国の実体経済及び財政への影響を最小限に抑える役割を有している欧州銀行連合の破綻処理機関

1. マクロ経済・金融・地政学的リスクに直面する銀行・保険セクターの安全性と健全性の維持・強化

保険セクターでは、金利リスクと資産・負債のデュレーションギャップの管理を引き続き注意深く監視する。生命保険分野では、2023年に向けて支払われるリターンの変更、特に貯蓄者にとって魅力的なリターンを維持するために、近年積み立てられた利益配分引当金の段階的な再配分を検討する。ACPRは、2023年に抑制されている生命保険の解約の動向と、それが保険会社のソルベンシーと流動性に及ぼす影響を監視する。損害保険では、ACPRは、保険会社の収益性ととともに、約定のモデル化においてインフレがどのように考慮されているかについても検討する。

(信用リスクに関係しては) 保険セクターでは、経済情勢の影響を最も受けやすい組織、特に保証会社部門(信用保険、完成保証)、及び保険料の下落の影響を受ける可能性のある医療・年金保険部門に警戒が集中する。

2. 構造的な脆弱性に対処し、新たなリスクや発展途上のリスクの特定、予防、監督に積極的に取り組む

(気候変動の取組に関しては) 2024年には、保険会社を対象とした第2回気候ストレステストの実施の結果とこのガバナンスに関する作業が公表される予定である。ACPRの専門家は、気候変動と生物多様性に関する国際的な取り組みにも貢献する。

(業務プログラムでは、新技術に関連するリスクの監視を重要な優先事項として維持し) ACPRの専門家は、クラウド・コンピューティングとオープン・バンキング・サービスの外部プロバイダーの監督を規定するDORA(デジタル・オペレーショナル・レジリエンス法)規制を実施する。また、情報システムのデジタルトランスフォーメーションのコストとメリット、人工知能やブロックチェーンを利用したアプリケーションに関連するオペレーショナルリスクについても研究する。金融システムに対する攻撃が高度化し、その数も増加しているため、サイバーリスクと情報システムのセキュリティは引き続き注意深く監視される。

ACPRは、銀行セクターについてはバーゼルⅢへの移管、保険セクターについてはソルベンシーⅡ指令及び保険・再保険会社の再建・破綻処理に関する指令の改正のための実施文書など、国際レベルで進行中の規制作業を引き続き監視する。

3. 不祥事リスクの特定と是正、質の高いLCB-FT⁴システムの維持

顧客保護の分野では、ACPRは金融詐欺を防止し、係争中の支払取引の処理を改善するため、AMF(金融市場庁)及び公的機関と引き続き協力する。

グリーンウォッシングとの闘いの一環として、ACPRチームは、金融商品の販売にESG(環境、社会、ガバナンス)選好が含まれているか、広告に持続可能な主張が使用されているかを監視する。

ACPRは、銀行商品と保険商品の設計とマーケティングが顧客の利益を尊重することを保証する。生命保険と損害保険においては、顧客にとっての商品の経済的利益(バリュー・フォー・マネー)と、適用される手数料の水準に細心の注意を払う。

⁴ マネーロンダリング及びテロ資金供与との闘い

4. ACPR の近代化と効率化の継続及びフランス銀行の戦略的計画への貢献

ACPR は、その監督ツールの有効性を高め、将来の監督手法に備えるため、引き続きイノベーションを活用していく。データの質を向上させ、各チームによるデータの利用価値を高めることは、引き続き中心的な課題である。特に、気候変動リスク、顧客保護、サイバーセキュリティ、データサイエンス、市場リスク、カウンターパーティーリスクなど、様々な分野の人材を採用することによって、ACPR の魅力を維持することも、2024 年の大きな課題となる。

破綻処理カレッジは、以下の 3 つの優先事項を特定して、採択している。

1. 単一破綻処理委員会 (CRU) の 2028 年戦略の一翼を担う ACPR は CRU の 2024 年優先課題に貢献する。

2. 保険破綻処理の専門性の強化

保険破綻処理の任務の一環として、ACPR は 2022 年末から 2023 年初めにかけて採択された最初の予防的破綻処理計画を更新する。

ACPR は、公益テストや破綻処理戦略のエントリー・ポイントの選択の問題をより詳細に検討することにより、破綻処理ツールの実施方法の開発を継続する。

この作業の延長として、ACPR は、保険グループに伝達可能なベスト・プラクティスを特定するため、保険グループから提出された予防的破綻処理計画について、重要な機能、その分離可能性、様々な相互関連性に関連する部分について水平的な分析を行う。

3. 影響力戦略の追求

なお、2023 年においては、以下の監督上の優先事項が挙げられていた。

1. 国際的な経済・地政学的状況、特にエネルギー価格の上昇と成長見通しの悪化に関連するリスクの監視
2. ウクライナ戦争の結果によって増幅される金利上昇、インフレ、不動産・金融資産の評価のリスクのモニタリング
3. 構造的なサイバー・気候リスクのモニタリング
4. 顧客保護及び LCB-FT の分野における行動の継続

その中で、特に保険に関するテーマとしては、以下が挙げられていた。

- ・保険セクターの監督は、ソルベンシー II の発効以来初めてとなる前例のない利上げを背景に行われており、保険事業への様々な影響を考慮した警戒が求められている。
- ・建設保険や信用保険のような経済状況に非常に敏感な活動が、監視の強化の対象となる。
- ・2021 年のパイロット演習に続き、2023 年には 2 回目の気候変動ストレステストを実施する。
- ・保険商品のマーケティングのガバナンスに引き続き焦点を当て、生命保険のコストに関する作業を継続する。
- ・保険セクターのソルベンシー II の改訂に関する欧州における交渉に焦点を当てた作業を行う。

・保険会社向けに 2022 年に作成された最初の破綻処理計画の継続と、保険の破綻処理に関する欧州文書草案に関連する作業への参加に焦点を当てる。

したがって、2024 年においては、破綻処理カレッジに関する優先事項の特定に加えて、環境変化等を踏まえた上での変更を行った上で、基本的には 2023 年における監督上の優先事項が引き続き採用されている。さらには、新たに「ACPR の近代化と効率化の継続及びフランス銀行の戦略的計画への貢献」が項目に挙げられている。

保険においては、金利の上昇とインフレの進行を背景に、「金利リスクと資産・負債のデュレーションギャップの管理を引き続き注意深く監視する。」としている。また、2023 年に実施された 2 回目の気候変動ストレステストの結果とこのガバナンスに関する作業が公表される予定となっている。

さらに、破綻処理カレッジの優先事項に「保険破綻処理の専門性の強化」が挙げられ、保険破綻処理の任務の一環として、ACPR は 2022 年末から 2023 年初めにかけて採択された最初の予防的破綻処理計画を更新し、破綻処理ツールの実施方法の開発を継続し、この作業の延長として、保険グループに伝達可能なベスト・プラクティスを特定するため、保険グループから提出された予防的破綻処理計画について、重要な機能、その分離可能性、様々な相互関連性に関連する部分について水平的な分析を行う、としている。

4—まとめ

以上、今回のレポートでは、米国の NAIC やフランスの ACPR の 2024 年における監督・規制上の優先事項について、報告してきた。

以前の保険年金フォーカスで報告した [EIOPA \(欧州保険年金監督局\) の 2024 年の監督上のコンバージェンス計画](#) や [英国の PRA \(健全性規制機構\)](#) や [オーストラリアの APRA \(オーストラリア健全性機構\) の監督上の優先事項](#) に加えて、今回の NAIC や ACPR が掲げている課題のいくつかは、基本的には世界各国の保険業界に共通する課題であり、そのためグローバルレベルでの IAIS (保険監督者国際機構) においても、同様のトピックに関する検討が行われてきている。

これらの課題は、日本の保険会社にとっても極めて重要な課題であることから、これらの検討を巡る動向等については、今後も引き続き注視していくこととしたい。

以 上